

基 調 編

- 2022 年度 (一社)守口門真青年会議所基本計画理事長所信
- 2022 年度 組織図
- 2022 年度 事業計画
- 2022 年度 予算書
- 2022 年度 出向者一覧

一般社団法人守口門真青年会議所 2022 年度 基本計画

○ 基本理念

私たちの存在意義を再認識し、未来を切り拓く

○ 2022 年度守口門真 JC スローガン

新章の幕開け～守口門真青年会議所ここにあり～

○ 基本方針

- ・ 守口門真青年会議所会員としての自覚をもち、出会いを大切にする
- ・ 未来を切り拓き、未来のリーダーを育成する
- ・ 健康と命を大切にする
- ・ Junior Chamber International の一員として行動をする
- ・ 新しい自治体の在り方を考える

○ 理事長所信

一般社団法人 守口門真青年会議所 2022 年度 理事長 竹内 太司朗

【はじめに】

「青年会議所が存在する意義は何か。」逆説的な視点で考えると、「その存在がなければ、私たちが住み暮らすまちはどうなるのか。何も変わらないのであろうか。」その視点ももち合わせながら、私たちの存在価値を見いだす必要があります。

1915 年、「自由な社会と経済発展を実現し、新しい社会をリードするにふさわしい人材育成」を目的として小さな青年活動グループから JC 運動が始まり、1944 年には「積極的な変革を創り出すのに必要な指導者としての力量、社会的責任、友情を培う機会を若い人々に提供することにより、地球社会の進歩発展に資すること」を使命に国際青年会議所が発足しました。そして、1951 年、「新しい日本の再建は我々青年の仕事である」という覚悟のもと、日本青年会議所が第一歩を踏み出しました。その思いが脈々と引き継がれ、各自治体の特色に合わせながら、1969 年に守口青年会議所、1973 年に門真青年会議所が設立され、2005 年、その二つの団体が一つとなり、守口門真青年会議所が誕生しました。

私たちは、その原点に立ち返り、歴史を振り返りながら、本来あるべき姿を再認識し、守口市、門真市、そして住み暮らす市民の方々の未来のために JC 運動をすることが重要であ

り、守口門真青年会議所の存在価値をさらに高めなければなりません。

【守口門真青年会議所会員としての自覚をもち、出会いを大切にする】

私たちが入会をした理由は様々だとしても、言うまでもなく、守口門真青年会議所の会員としての自覚をもち、行動していく必要があります。そして、一回限りの人生における 20 歳から 40 歳までという青年としての貴重な時間を有意義に過ごし、それぞれが地域のリーダーとして活躍しながら、明るい豊かな社会の実現に向けて JC 運動に邁進しなければなりません。これらのことを成し遂げるには、学びなどの機会を設け、守口門真青年会議所に所属する者として、研鑽を深めることが必要です。

また、JC 運動は一人ではできません。あなたが出会った人は世界総人口約 77 億人の内の 1 人となります。その確率を考えると想像を超えるものとなり、何かしらの運命があるとすれば、奇跡とも言える出会いであり、意味のあるものなのかもしれません。私たちは、守口門真青年会議所で奇跡的に出会った大切な仲間です。この思いを念頭に、仲間を差別せず、多様性を尊重することが何よりも大切であり、さらには、青年会議所の理念の一つでもある「友情」を育み、共に感動をし、途中で諦めることなく JC 運動を続けていくことが必要です。

【未来を切り拓き、未来のリーダーを育成する】

科学技術が進歩し、その進歩のスピードは想像をはるかに超えています。一例を挙げるならば、内閣府が掲げる「ムーンショット計画」は 2050 年の未来の社会を描き、その社会は輝く夢物語のように見えても、その実現に向け様々な計画がすでに始動しているほどです。私たちは、未来を切り拓くために、青年会議所会員として、今の時代に追いつくことができるよう、様々な情報を得る努力を惜しまないことだけでなく、未来を先読みし、大局観をもちながら持続可能な運動を展開していくことも大切です。私たちの創造が礎となる輝かしい未来では、今を生きる子供たちが中心世代となっていることでしょう。その未来を担う可能性を秘めた子供たちを育成するのは私たちの使命です。この使命を全うするために、私たち自身も共に学び、そして、未来のリーダーとなる子供たちの育成に力を入れていきます。

【健康と命を大切にする】

2025 年に開催される大阪・関西万博では、基本構想の一つに「人類の健康・長寿への挑戦」が掲げられ、そして、基本計画には「いのち輝く未来」が掲げられるほど、今や健康と命を考えることについては人類にとって大きな課題の一部となっています。私たちは、「数年に一度」や「記録的」と言われる自然災害の発生のみならず、当時は未知であった新型コロナウイルスのまん延などを経験し、これまで以上に健康と命が如何に大切かを気付かされたはずです。私たちは、青年会議所会員として、これから起こる可能性のある災難に対し

での備えを怠ることなく、いざという時には、最善の方法を熟考し市民の方々のために行動していく必要があります。私たちは、現在起きている数々の困難のなかで得た経験や気付きを無駄にすることなく活かし、市民の方々が健康と命を大切にできる生活を未来にわたって送って頂けるように運動を展開していきます。

【Junior Chamber International の一員として行動をする】

私たちは、国際青年会議所の一員でもあり、国際人としての自覚をもつことが大切です。国際人とは、英語などを話すことができ、世界で活躍している人たちだけを指すものではありません。国際人となる要素の一つには、自身が生まれ育った国の文化や歴史などについて語ることができる知識が必要です。この必要性を意識しながら、まずは私たちが生まれ育ったまち、そして運動を展開している守口市、門真市の歴史や文化などを深く知ることから始め、国際人としての質を高めるだけに留まらず、この活動の成果を活かすために、姉妹 JC を始め世界の青年会議所と積極的に交流を行う機会も増やしていきます。また、当然、今の私たちが過去を振り返るものだけが歴史や文化であるとは限りません。私たちの新たな創造が時代を大きく動かすことになれば、将来の人々にとっては歴史や文化となっているはずです。私たちは、未来を切り拓く青年として、将来、振り返られることとなる歴史と文化を創造し、世界に向けてその魅力を発信していきます。

【新しい自治体の在り方を考える】

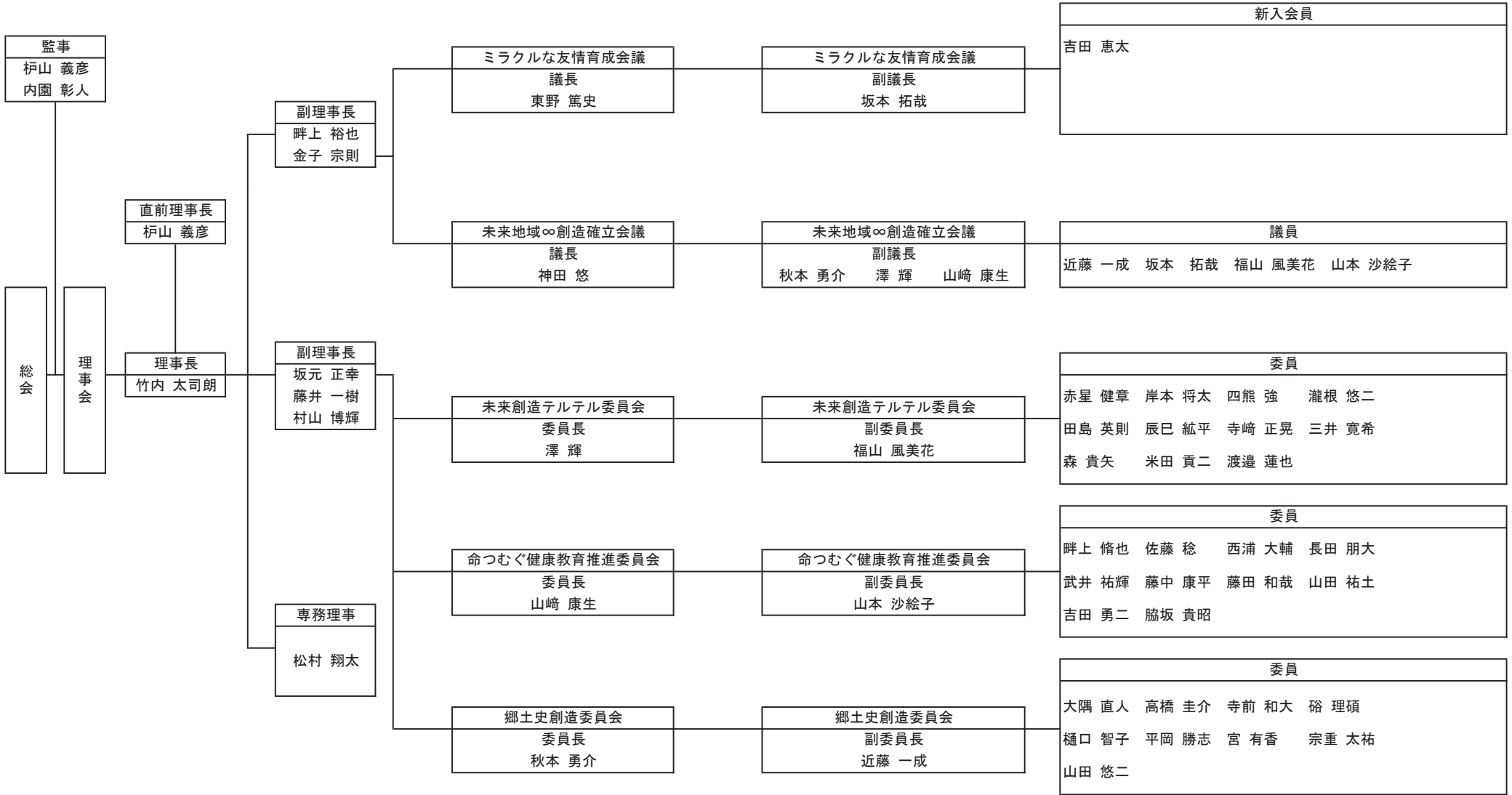
日本青年会議所が発足した時の「新しい日本の再建は我々青年の仕事である」という使命を「守口市、門真市の創造は我々青年の仕事である」という言葉に置き換え、私たちが中心となり、行政や市民の方々、そして各種団体と協力し合いながら新しい自治体の在り方を考えることが必要です。私たちが、この原点でもある「青年の仕事」を担い、運動をしていくことが必ずや将来の役に立つものとなり、守口市、門真市の新たな道標になると確信しています。私たち守口門真青年会議所は、二つの自治体で活動する団体であるからこそ、そのスケールメリットを活かし、守口市、門真市のさらなる発展のため、一丸となって取り組んでまいります。

【結びに】

物事を考える視点に、「虫の目・鳥の目・魚の目」が必要であるとされています。2022年度は全ての視点が入っています。「原点に立ち返り、歴史を振り返りながら、現在の課題を細かく分析し解決すること」そして、「未来を予測し、物事を大局的な視点で捉え、俯瞰しながら果敢に何事にも挑戦をすること」さらには、「時代の流れを把握し、物事の変化を的確に捉え行動していくこと」これらの3つの視点は必ず、守口市、門真市に貢献でき、市民の方々にとっても役に立つものであると確信しています。

守口門真青年会議所の連綿たる感動や情熱を引き継ぎ、2022年度は「新章の幕開け」と

いうスローガンのもと、何事にも挑戦する気概をもって行動してまいります。そして、数十年後、「私たちがいなければ、今の時代はなかった。2022年度も素晴らしい1年だった」と思い出を皆で語り合えるような物語を全員で創造してまいります。



監事
庐山 義彦
内園 彰人

総会
理事会

直前理事長
庐山 義彦

理事長
竹内 太司朗

副理事長
畔上 裕也
金子 宗則

副理事長
坂元 正幸
藤井 一樹
村山 博輝

専務理事
松村 翔太

ミラクルな友情育成会議
議長
東野 篤史

ミラクルな友情育成会議
副議長
坂本 拓哉

新入会員
吉田 恵太

未来地域∞創造確立会議
議長
神田 悠

未来地域∞創造確立会議
副議長
秋本 勇介 澤 輝 山崎 康生

議員
近藤 一成 坂本 拓哉 福山 風美花 山本 沙絵子

未来創造テルテル委員会
委員長
澤 輝

未来創造テルテル委員会
副委員長
福山 風美花

委員
赤星 健章 岸本 将太 四熊 強 瀧根 悠二
田島 英則 辰巳 紘平 寺崎 正晃 三井 寛希
森 貴矢 米田 貢二 渡邊 蓮也

命つむぐ健康教育推進委員会
委員長
山崎 康生

命つむぐ健康教育推進委員会
副委員長
山本 沙絵子

委員
畔上 脩也 佐藤 稔 西浦 大輔 長田 朋大
武井 祐輝 藤中 康平 藤田 和哉 山田 祐土
吉田 勇二 脇坂 貴昭

郷土史創造委員会
委員長
秋本 勇介

郷土史創造委員会
副委員長
近藤 一成

委員
大隅 直人 高橋 圭介 寺前 和大 碓 理碩
樋口 智子 平岡 勝志 宮 有香 宗重 太祐
山田 悠二

■ミラクルな友情育成会議

<特別会議構成メンバー>

議長 東野 篤史 副議長 坂本 拓哉

<特別会議スローガン>

愚直な JAYCEE となろう！

<特別会議方針>

近年 20 代のメンバーを多く迎え入れた結果、平均年齢 32 歳と組織は若返りました。しかし、在籍平均年数 3 年未満が全体の 50%を超え、我々の本質である会議や、その運営の質を保った存続が危惧されています。時代を牽引しリーダーを生み出す我々だからこそ、基礎を理解し様々な価値観をもとに研鑽し、応用力を付けることで守口門真青年会議所の価値を生み出す必要があります。

まずは、新たに加わるメンバーが誰一人取り残されることなく活動を継続するために、基本知識をメンバーが伝えることのできるマニュアルや仕組みを構築し、既存メンバーおよび新入会員の責任感を醸成します。そして、基本から応用へとメンバーの知識やスキルを領域展開するために、より広く多く青年会議所の可能性に触れ、見識のある方から学ぶことで、魅力に向き合い自らが実践へと移す契機とします。さらに、守口門真青年会議所が力を付け大きなインパクトを与えるために、新入会員が拡大会議を企画することで、多様性に向き合った強い組織へと昇華します。

自らが所属する組織に誇りをもったメンバーが切磋琢磨することによって生み出される友情を求め、愚直なまでの JAYCEE が繰り広げる奇跡を創出してまいります。

■ミラクルな友情育成会議＜事業スケジュール＞

| | 月→ | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
|---------------------------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 事業名↓ | 理事会→ | p3 | p4 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 1. 新入会員の受け入れ・育成 | | 協 | 審 | 実 | 実 | 実 | 実 | 実 | 実 | 実 | 実 | 実 | 実 | 実 | 実 | 決 |
| 2. 2月オンライン研修 | | | | 報 | 実 | | | | | | | | | | | |
| 3. 5月度例会の企画運営 | | | | 協 | 協 | 審 | | 実 | | | 決 | | | | | |
| 4. 6月オンライン研修 | | | | | | | | 報 | 実 | | | | | | | |
| 5. 大阪ブロック大会ブース出展の企画運営(9月) | | | | | | | | 協 | 協 | 審 | | 実 | | | | |
| 6. 11月度例会の企画運営 | | | | | | | | | | 協 | 協 | 審 | | 実 | | 決 |
| 7. 広報誌の作成(2月・7月) | | | 報 | 報 | 実 | | 報 | 報 | 報 | 実 | | 報 | | | | |

記入例: 協 1=協議 1、協 2=協議 2、審=審議、実=実施、報=報告依頼、決=事業決算報告

p は pre 予定者段階

■未来地域∞創造確立会議

<特別会議構成メンバー>

議長 神田 悠

副議長 秋本 勇介 澤 輝 山崎 康生

議員 近藤 一成 坂本 拓哉 福山 風美花 山本 沙絵子

<特別会議体スローガン>

未来無限大

<会議体方針>

守口市と門真市の合併に先立ち守口青年会議所と門真青年会議所は統合し守口門真青年会議所が誕生しました。しかし、市の合併は住民投票を経て合併構想は白紙撤回となりました。結果として、現在の私たちの活動範囲は両市に跨ることとなり、それぞれの行政や各種団体の方々と接しながら例会や事業を行うことで、LOM メンバーは多くの気付きと学びを得てきました。そして、時は平成から令和へと進み、時代とともにまちの状況にも様々な変化がみられる今だからこそ、地域の中軸を担う責任世代である私たちが進取の精神をもって、無限の可能性に満ち溢れた未来を切り拓いていく必要があります。

まずは、これまでの活動により築いてきた行政、各種団体、市民の方々との関係をより深めます。そして、全てにおいて中立的な青年会議所だからこそ関係各所との橋渡し役となり、様々な視点からの考えを集約します。さらに、我々の運動が未来の選択肢を広げることになるように情報を発信していきます。

私たちが地域を牽引するリーダーとして、時代に即し、地域に根ざした運動を展開し続け、自らの力で未来を切り拓いて、活気と魅力に溢れる新しい地域の在り方を創造します。

■ 未来地域∞創造確立会議 <事業スケジュール>

| | 月→ | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
|-----------------------|------|-----|----|----|----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 事業名↓ | 理事会→ | p3 | p4 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 1. 新年交歓会企画運営 | | 協 2 | 審 | 実 | | 決 | | | | | | | | | | |
| 2. 6月北河内地域合同例会の企画運営 | | | | | | | 報 | 報 | 実 | | | | | | | |
| 3. 7月総会懇親会の企画運営 | | | | | | 協 1 | 協 2 | 審 | | 実 | | 決 | | | | |
| 4. 10月度例会の企画運営 | | | | | | | | | 協 1 | 協 2 | 審 | | 実 | | 決 | |
| 5. 12月度例会卒業式・謝恩会の企画運営 | | | | | | | | | | | 協 1 | 協 2 | 審 | | 実 | 決 |
| 6. 大納会の設営 | | | | | | | | | | | | | 報 | 報 | 実 | |
| 7. 卒業記念誌の作成・発刊 | | | | | | | | | | | 協 1 | 協 2 | 審 | | 実 | 決 |
| 8. 広報誌の作成(3月・8月) | | | | | 報 | 実 | | | | 報 | 実 | | | | | |

記入例: 討=討議、協 1=協議 1、協 2=協議 2、審=審議、実=実施、報=報告依頼、決=事業決算報告

p は pre 予定者段階

■未来創造テルテル委員会

<委員会構成メンバー>

| | | | | | |
|------|-------|------|--------|------|-------|
| 委員長 | 澤 輝 | 副委員長 | 福山 風美花 | 総括幹事 | 瀧根 悠二 |
| 運営幹事 | 寺崎 正晃 | 運営幹事 | 三井 寛希 | 会計幹事 | 岸本 将太 |
| 委員 | 赤星 健章 | 委員 | 四熊 強 | 委員 | 田島 英則 |
| 委員 | 辰巳 紘平 | 委員 | 森 貴矢 | 委員 | 米田 貢二 |
| 委員 | 渡邊 蓮也 | | | | |

<委員会スローガン>

未来研鑽～輝け！未来の笑顔を咲かせよう～

<委員会方針>

輝く未来の実現に向け、想像以上のスピードで、様々な計画が始動しています。そのような環境の中で、私達が未来に向かって活動を行っていくには、様々な知識を得る必要があります。さらに守口門真青年会議所は、未来を創造していくだけでなく、その未来で生きる子供たちが中心となって輝かしい時代を担えるような人財になれるよう、未来のリーダーを育成、そして守っていく必要があります。

未来で活躍するリーダーとなる子供の育成は、地域の方々と協力し、行動していくことが必要です。そのためには、まず私達が向かう未来はどのようなものであるかを知り、また、現状の課題からどのような未来であるべきかを考えたうえで、子供たちだけでなく、地域の大人にも、未来について、守口門真青年会議所の想いを伝え、共有できる機会をもっていただく必要があります。各事業では、地域の方々との交流を行い、未来について学び、考え、行動につなげるような機会とします。また青年会議所が共に未来を創っていく団体として認知される機会とし、想いを伝えられるような事業をつくっていきます。

私たちは、世界が輝いて見えるような未来を創造するために、はじめの一步を踏み出します。

■ 未来創造テルテル委員会 <事業スケジュール>

| | 月→ | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
|--------------------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 事業名↓ | 理事会→ | p3 | p4 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 1. 4月度例会の企画運営 | | | 協1 | 協2 | 審 | | 実 | | 決 | | | | | | | |
| 2. 交通安全推進活動(春) | | | | | 報 | 報 | 実 | | | | | | | | | |
| 3. 交通安全推進活動(秋) | | | | | | | | | | | 報 | 報 | 実 | | | |
| 4. 門真まつりブース出展の企画運営 | | | | | | | 協1 | 協2 | 審 | | 実 | | 決 | | | |
| 5. 9月度例会の企画運営 | | | | | | | | 協1 | 協2 | 審 | | 実 | | 決 | | |
| 6. 広報誌の作成 | | | | | | 報 | 実 | | | | 報 | 実 | | | | |

記入例: 討=討議、協 1=協議 1、協 2=協議 2、審=審議、実=実施、報=報告依頼、決=事業決算報告

p は pre 予定者段階

■命つむぐ健康教育推進委員会

<委員会構成メンバー>

| | | | | | |
|------|-------|------|--------|------|-------|
| 委員長 | 山崎 康生 | 副委員長 | 山本 沙絵子 | 総括幹事 | 脇坂 貴昭 |
| 運営幹事 | 畔上 脩也 | 会計幹事 | 佐藤 稔 | | |
| 委員 | 西浦 大輔 | 委員 | 長田 朋大 | 委員 | 武井 祐輝 |
| 委員 | 藤中 康平 | 委員 | 藤田 和哉 | 委員 | 山田 祐土 |
| 委員 | 吉田 勇二 | | | | |

<委員会スローガン>

未来へつむぐ健康長寿の種 ～身体を動かす一歩から～

<委員会方針>

日本人の平均寿命、健康寿命は年々伸びており、「人生 100 年時代」を迎えようとしています。しかし、平均寿命と健康寿命の差は、男性で約 9 歳、女性で約 12 歳の差があります。これは、全員が健康な状態で最後まで生きられるというわけではないということがわかります。「長く生きる＝不健康な期間が長くなるだけ」とならないために、誰もが生涯にわたって心身ともに健康で豊かな生活の実現ができるよう、健康・命の大切さについての考え方を改め、熟考し、地域住民の方々のために行動していく必要があります。

まずは、私たち守口門真青年会議所メンバーの一人ひとりが、自分自身の生活習慣・健康について見つめ直すことから始めます。次に、健康の大切さについて学び、如何に健康寿命が大切なのか理解を深めることにより、一人ひとりが行動変容を起こします。そして、私たち守口門真青年会議所メンバーが中心となり、地域住民の方々に健康寿命の大切さを伝え、行動変容を起こすための自己効力感を高めて頂けるよう運動を発信していきます。

命つむぐ健康教育推進委員会では、私たちが自分自身の健康と命の大切さに高い意識をもち、地域住民の方々に健康教育を推進してまいります。

■ 命つむぐ健康教育推進委員会 <事業スケジュール>

| | 月→ | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
|-----------------------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 事業名↓ | 理事会→ | p3 | p4 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 1. 2月度例会の企画運営 | | 協2 | 審 | | 実 | | 決 | | | | | | | | | |
| 2. 献血推進活動(春) | | | | | 報 | 報 | 実 | | | | | | | | | |
| 3. 9月度例会の企画運営 | | | | | | | | 協1 | 協2 | 審 | | 実 | | 決 | | |
| 4. 献血推進活動(秋) | | | | | | | | | | | 報 | 報 | 実 | | | |
| 5. 守口市民祭リブース出展(案)企画運営 | | | | | | | | | | 協1 | 協2 | 審 | | 実 | | 決 |
| 6. 広報誌の発刊 | | | | | | | 報 | 実 | | | | 報 | 実 | | | |

記入例: 協1=協議1、協2=協議2、審=審議、実=実施、報=報告依頼、決=事業決算報告

p は pre 予定者段階

■郷土史創造委員会

〈委員会構成メンバー〉

| | | | | | |
|-----|-------|------|-------|------|-------|
| 委員長 | 秋本 勇介 | 副委員長 | 近藤 一成 | 総括幹事 | 碓 理碩 |
| 幹事 | 宗重 太祐 | 委員 | 青山 寛幸 | 委員 | 井上 太陽 |
| 委員 | 大隅 直人 | 委員 | 高橋 圭介 | 委員 | 竹中 優也 |
| 委員 | 寺前 和大 | 委員 | 早川 俊一 | 委員 | 樋口 智子 |
| 委員 | 平岡 勝志 | 委員 | 藤川 雄二 | 委員 | 宮 友香 |
| 委員 | 山口 翔平 | 委員 | 山田 悠二 | | |

〈委員会スローガン〉

未来を咲かし、飛躍しよう！

〈委員会方針〉

インターネットの普及が進む中、簡単に世界の人々と交流ができる環境はありますが、デジタルとアナログの融合がうまくできていない現状があります。国際青年会議所の一員、また未来を切り開く青年として、視野を拡げ先頭に立って発信する必要があります。

まずは、世界へ新たな発信をするために、守口市、門真市、守口門真青年会議所の歴史・文化を語れる知識を身に付けたくて、新たな発想・アイデアを創造し、世界の青年会議所・地域との交流の機会をもちます。シニアクラブ交流会春・秋においてはこれまで守口門真青年会議所を築き上げてこられた先輩方から、過去の歴史や魅力を学び、これからの発信につながる交流会を行います。近畿地区大会ブース出店では、守口門真青年会議所の魅力を近畿地区協議会内に発信し、他の青年会議所の歴史や文化を吸収できる場につなげます。国際人として発信するために、これまでは地域に目を向けていた広報誌に加え、世界全地域にも魅力を伝えるために、SNS の活用を強化することで守口門真青年会議所を世界に認知されるようにします。

郷土史創造委員会では新たな未来の歴史・未来の文化を創り、将来振り返られることとなる組織を実現します。

■ 郷土史創造委員会 <事業スケジュール>

| | 月→ | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
|---------------------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 事業名↓ | 理事会→ | p3 | p4 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 1. 3月度例会企画運営 | | 協1 | 協2 | 審 | | 実 | | 決 | | | | | | | | |
| 2. シニアクラブ交流会(春) | | | | 報 | 報 | 実 | | | | | | | | | | |
| 4. 近畿地区大会ブース出展の企画運営 | | | | | | 協1 | 協2 | 審 | | 実 | | 決 | | | | |
| 5. 9月度例会企画運営 | | | | | | | | 協1 | 協2 | 審 | | 実 | | 決 | | |
| 6. シニアクラブ交流会(秋) | | | | | | | | | | 報 | 報 | 実 | | | | |
| 7. 広報誌の作成 6月版・11月版 | | | | | | | | 報 | 実 | | 報 | 実 | | | | |

記入例: 協1=協議1、協2=協議2、審=審議、実=実施、報=報告依頼、決=事業決算報告

p は pre 予定者段階

2022年度 一般社団法人 守口門真青年会館所

収支予算書

2022年1月1日から2022年12月31日まで

| 科目 | 2022年度 予算額 | 差異 | 2021年度 予算額 | 2021年度 決算額 | 備考 |
|---------------|---------------|------------|---------------|---------------|--|
| 1. 事業活動収入 | | | | | |
| 入会金収入 | 100,000 | 0 | 250,000 | 230,000 | |
| 会費収入 | 6,940,000 | -1,970,000 | 8,910,000 | 8,660,000 | |
| 正会員会費収入 | 5,640,000 | -240,000 | 5,880,000 | 5,880,000 | \120,000×期首会員47名 |
| 新入会員会費収入 | 1,200,000 | -1,800,000 | 3,000,000 | 2,760,000 | \120,000 × 10名 |
| 特別会員会費収入 | 100,000 | 70,000 | 30,000 | 20,000 | \10,000 × 10名(2021卒) |
| 賛助会員会費収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1口(10,000円)×50口 |
| 事業収入 | 2,610,000 | 1,610,000 | 1,000,000 | 642,000 | |
| 登録料収入 | 2,600,000 | 1,600,000 | 1,000,000 | 642,000 | 新年交歓会/総会懇親会/卒業式謝恩会 |
| 販売収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑収入 | 10,000 | 10,000 | 0 | 0 | |
| 受取負担金収入 | 450,000 | 0 | 450,000 | 450,000 | |
| シニアクラブ負担金 | 450,000 | 0 | 450,000 | 450,000 | |
| 受取寄付金収入 | 410,000 | 150,000 | 250,000 | 0 | |
| 受取寄付金 | 400,000 | 150,000 | 250,000 | 0 | わんぱく相撲 |
| クラウドファンディング | 10,000 | | 1000 | | |
| 受取募金 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑収入 | 312,000 | 110,000 | 52,000 | 603,202 | |
| 受取利息収入 | 1,000 | 0 | 1,000 | 61 | |
| 特別基金 受取利息収益 | 1,000 | 0 | 1,000 | 20 | |
| JCカード | 100,000 | 50,000 | 50,000 | 123,121 | L O M還元 5,000円×10人 ※決算額参照 |
| その他雑収入 | 60,000 | 60,000 | 0 | 480,000 | J Cカード新規登録キャッシュバック金含む |
| 広告料収入 | 150,000 | 0 | 0 | 0 | FMハナコ、広報誌協賛金 |
| 周年積立金切り崩し | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| シニアクラブ周年協力金 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 新入会員の繰入金支出 | 0 | | | 0 | |
| 特別基金取り崩し | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 事業活動収入計 | 10,822,000 | -90,000 | 10,912,000 | 10,585,202 | |
| 2. 前年度繰越金 | 6,176,427 | 1,797,491 | 4,378,936 | 4,378,936 | |
| 3. 事業活動支出 | | | | | |
| 事業費支出 | 7,700,000 | -4,920,000 | 5,850,000 | 3,035,486 | |
| 感謝連綿委員会 | 0 | -1,450,000 | 1,450,000 | 564,061 | 総会懇親会登録料含む |
| 未来共創まちづくり委員会 | 0 | -1,150,000 | 1,150,000 | 521,795 | |
| コロナ子ども育成委員会 | 0 | -700,000 | 700,000 | 451,300 | 寄付金収入含む |
| 17の輪推進委員会 | 0 | -750,000 | 750,000 | 242,588 | |
| 組織力向上総務委員会 | 0 | -1,650,000 | 1,650,000 | 1,255,742 | 登録料(新年交歓会、総会懇親会、卒業謝恩会)含む |
| 青年経済人確立推進委員会 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| グローバルセンス確立委員会 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 未来創造テルテル委員会 | 750,000 | | 0 | 0 | |
| 命つむぐ健康教育推進委員会 | 750,000 | | 0 | 0 | |
| 郷土史創造委員会 | 650,000 | | 0 | 0 | |
| ミラクルな友情育成会議 | 670,000 | | 0 | 0 | |
| 未来地域創造確立会議 | 3,950,000 | | 0 | 0 | 登録料(新年交歓会、総会懇親会、卒業謝恩会)含む |
| 正副理事長 | 930,000 | 780,000 | 150,000 | 0 | |
| 特別事業費支出 | 1,180,000 | | | | |
| 定時総会 | 100,000 | | | | |
| 新年交歓会PR日程計画 | 50,000 | | | | |
| 役員選考委員選出投票の管理 | 30,000 | | | | |
| 臨時総会 | 100,000 | | | | |
| 愛の鈴贈呈事業 | 400,000 | | | | |
| わんぱく相撲大会 | 500,000 | | | | |
| 管理費支出 | 4,455,725 | -222,150 | 4,677,875 | 3,429,392 | |
| 会議費 | 200,000 | 100,000 | 100,000 | 57,600 | |
| 給与手当 | 1,200,000 | 0 | 1,200,000 | 1,200,000 | |
| 退職給付費用 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 福利厚生費 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 法定福利費 | 4,500 | 0 | 4,500 | 3,624 | |
| 通信費 | 150,000 | -150,000 | 300,000 | 225,450 | |
| 広報費 | 30,000 | -40,000 | 70,000 | 0 | facebook広告料 |
| 消耗品費 | 50,000 | 0 | 50,000 | 30,473 | |
| 消耗什器備品費 | 40,000 | 0 | 40,000 | 29,695 | |
| 倉庫賃賃費 | 180,000 | 0 | 180,000 | 180,000 | |
| 共益費 | 250,000 | -18,000 | 268,000 | 227,603 | |
| 事務機賃賃料 | 100,000 | -250,000 | 350,000 | 302,616 | |
| 修繕費 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 印刷製本費 | 85,000 | 0 | 85,000 | 56,320 | |
| 光熱費 | 100,000 | 0 | 100,000 | 81,365 | |
| 業務委託 | 220,000 | 20,000 | 200,000 | 193,400 | |
| 租税公課 | 200,000 | 0 | 200,000 | 185,900 | |
| 渉外費 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 213,751 | |
| 支払手数料 | 20,000 | 0 | 20,000 | 6,720 | |
| 雑費 | 500,000 | 200,000 | 300,000 | 240,180 | ダイナースクラブ年会費、Zoom年会費含む |
| 総務費 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 新入会員支出 | 126,225 | -84,150 | 210,375 | 194,695 | バッジ1,800・プレート1,750・ポロシャツ1,700・ジャンパー2,900・入会証証書90・筒175(8,415)×25名 |
| 負担金支出 | 2,718,873 | 461,849 | 2,257,024 | 1,787,528 | |
| J C I 会費 | 94,848 | -43,576 | 138,424 | 135,278 | \1,664×87名 |
| 日本 J C 会費 | 320,000 | -117,500 | 437,500 | 432,500 | 基本金\60,000 \5,000 × 47名+\2,500円 × 10名 |
| 近畿地区協議会会費 | 132,600 | -55,800 | 188,400 | 115,400 | 基本金\30,000 \1,800 × 57名 |
| 大阪ブロック協議会会費 | 278,400 | -122,200 | 400,600 | 395,400 | 基本金\8,000 \5,200 × 47名+\2,600円 × 10名 |
| 国際協力資金 | 104,025 | -56,575 | 160,600 | 156,950 | \1,825 × 57名 |
| 日本 J C 出向者負担金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 受益者負担 |
| 機関紙購読料 | 156,000 | -70,500 | 226,500 | 198,000 | \3,000 × 47名+\1,500円 × 10名 |
| 近畿地区大会登録料 | 171,000 | -93,000 | 264,000 | 189,000 | \3,000×57名 |
| 大阪ブロック大会登録料 | 114,000 | -62,000 | 176,000 | 0 | \2,000 × 57名 |
| ASPAC大会登録料 | 1,083,000 | 1,083,000 | 0 | 0 | \19,000 × 57名 |
| JC手帳購入費 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| アジェンダシステム費用 | 165,000 | 0 | 165,000 | 165,000 | |
| 寄付金支出 | 100,000 | 0 | 100,000 | 0 | |
| 正会員会費返金 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 新入会員会費返金 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 協賛金・後援金支出 | 300,000 | | | | FMハナコ出演料 |
| 他会計への繰入金支出 | 515,850 | -23,775 | 539,625 | 535,305 | |
| 周年積立金 | 500,000 | 0 | 500,000 | 500,000 | |
| 特別基金への繰入金支出 | 15,850 | -23,775 | 39,625 | 35,305 | \1,585 × 10名 |
| 事業活動支出計 | 15,390,448 | 2,065,924 | 13,324,524 | 8,787,711 | |
| 4. 予備費支出 | 1,607,979 | -358,433 | 1,966,412 | 0 | |
| 当期収入合計 | 16,998,427 | 1,707,491 | 15,290,936 | 14,964,138 | |
| 当期支出合計 | 16,998,427 | 1,707,491 | 15,290,936 | 8,787,711 | |
| 当期収支差額 | 0 | 0 | 0 | 6,176,427 | |

■ 出向者一覧

公益社団法人日本青年会議所 近畿地区協議会

監査 東野 篤史
輝く人財育成会議
副委員長 藤井 一樹

監査セクレタリー

チーフ 山本 沙絵子 裕 理 碩
脇坂 貴昭

公益社団法人日本青年会議所 近畿地区 大阪ブロック協議会

直前会長 東野 篤史 監査 神田 悠
イノベーション創出委員会
副委員長 坂元 正幸

理念共感拡大LOM支援委員会

委員 畔上 裕也 委員 村山 博輝

委員 山田 祐土

直前会長セクレタリー

チーフ 山本 沙絵子 裕 理 碩
脇坂 貴昭

監査セクレタリー

チーフ 西浦 大輔 佐藤 稔

2022出向先外郭団体

| | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 守口市安全なまちづくり推進協議会 | 藤井 一樹 |
| 守口市献血推進協議会 | 藤井 一樹 |
| 守口市交通安全都市推進協議会 | 村山 博輝 |
| 守口市青少年問題協議会 | 村山 博輝 |
| 守口市市民憲章推進協議会 | 金子 宗則 |
| 守口市民まつり実行委員会 | 畔上 裕也 藤井 一樹 村山 博輝 |
| 守口市人権協会 | 金子 宗則 |
| 守口市暴力追放推進連絡協議会 | 畔上 裕也 |
| エフエムもりぐち番組審議会 | 竹内 太司朗 松村 翔太 |
| 門真市安全なまちづくり協議会 | 坂元 正幸 |
| 門真市音楽協会 | 坂元 正幸 |
| 門真市交通安全推進協議会 | 村山 博輝 |
| 門真市民ミュージカル実行委員会 | 坂元 正幸 藤井 一樹 |
| 門真市駅エリアリノベーション事業 社会実験実行委員会 | 金子 宗則 |
| 門真市民まつり企画部長 | 畔上 裕也 |
| 門真市民まつり | 畔上 裕也 |
| 門真市社会福祉協議会 | 金子 宗則 |
| 門真市人権協会 | 村山 博輝 |
| 門真市青少年育成協議会 | 坂元 正幸 |